委託事業実施内容報告書
令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（A）】

実施内容報告書

団体名：地球っ子クラブ2000

1. 事業の概要

事業名称	多文化環境における子育て・教育を豊かにする日本語教育「多文化ハッピープログラム」
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	さいたま市は、外国人住民の多い都市で日本語ボランティア団体も多い。しかし、ともに暮らす「生活者としての外国人」という意識が浸透しているとはまだ言えない。外国出身者にとって大切な問題である、子育て、教育の環境は整っておらず、特に、これからの日本を支える大切な人材である子どもの教育については課題が山積している。外国出身者とその子どもが日本語を学ぶ機会が保障されることはもちろんであるが、その教育を担う学校の教員を含めた人材の育成は急務である。そのために、日本語教育コーディネーターの配置と、学校教育に外国人保護者が主体的に関わることができるような体制整備を進めることが今後も必要だと考えている。
事業の目的	「日本で育つ外国ルーツの子どもたちは、これからの社会を支える子どもたち」という認識を子どもたちを取り巻くすべての人が共有する必要がある。当団体（地球っ子クラブ2000および、多文化子育ての会Coconico、あそび舎てんきりん）が文化庁委嘱事業の中で気づき、積み重ねて、さらに教材化したノウハウをもとに、子どもたちやその保護者を取り巻くすべての人と学び合い、彼らが自分の持つ多様性と能力を活かし日本社会を構成する一員として活躍できるように、よりよい教育環境を作っていくことを目的とする。 そのための具体的な活動として、1）教室活動2）人材育成事業3）教材作成に取り組むが、生活者としての外国人のための日本語教育の理念を活動に活かし、さらには教育現場、地域社会に向けて、当事者である外国出身者と共に発信していく。 昨今、外国人材に期待する日本社会の流れの中で、生活者としての外国人の子育てや教育支援について、やっと関心が向くようになってきた。さいたま市でも、当団体が、文化庁委嘱事業の取組として訴えてきた日本語教育コーディネーターの件や生活者としての外国人に対する日本語教育の理念について、変化が感じられるようになってきている。その変化が、外国につながる子どもやその保護者にとって本当に意味のある体制に結びつくためには、教育をはじめとする地域社会全体が多文化共生の街へと成熟することが必要である。引き続き、「おんなじってうれしい！ちがうって楽しい！」を合い言葉に、多文化共生の街作り、多様性のある豊かな街作りの視点から、双方向の日本語教育を進めていきたい。
本事業の対象とする空白地域の状況（空白地域を含む場合のみ記入）	
事業内容の概要	子どもたちの教育環境を改善するという課題解決のために、以下の取組を行った。 **1）オンラインを活用した教室活動の継続** ＜親子の日本語教室＞ 地球っ子クラブ2000が担当。外国につながる子どもたちが、スムーズに学校生活を送り、自分の力が活かせるように、活動を軸にした親子の日本語教室。保護者も子どもと一緒に活動することで、日本の学校を理解し、親子間のことばの問題などにも意識が高まった。 ＜子育てを学ぶ場＞ 多文化子育ての会Coconicoが担当。孤立しがちな子育て中の外国出身者が子育てについて学び合い、相談しあえる教室。居場所作り、仲間作りにつながった。 ＜地域の人と共に学びあう場＞ あそび舎てんきりんが担当。多文化・多世代の人（日本人も、外国出身者も、障害のある人も）が集まる事務所やオンラインで、にほんご畑、親子の勉強部屋、多文化カフェなど多彩な活動を作り出した。互いに学び合い交流する中で、多文化共生の街作りに貢献できた。 ＜発信＞ 3つの教室に共通する活動として、子どもや保護者が自らの文化や言語を大切に保持できるよう、また、日本社会に多文化共生の意識が進むよう、多言語おはなし会、地域での講座など、当事者が活躍し日本社会に発信していく機会を作り出すことに力を入れた。 **2）人材育成事業** 外国につながる子どもたちに関わる人を対象に、外国人児童生徒への具体的配慮・対応を学ぶ実践講座。本事業では、ガイドブックに示された理念に基づき当団体が作成した教材やその内容を活用し、実践やワークを多く取り入れた講座を企画した。子どもたちを取り巻く人たちが繋がり、学びあうことにより、多文化共生の視点を持つ日本語教育をめざした。 **3）教材作成** 「外国人児童生徒受入れの手引き」が学校現場に浸透していない現状を踏まえ、手引きの理念に沿った、より具体的な手引書を2019年度に作成した。今年度は、それを人材育成事業で実際に活用した。その反応を反映しつつ、また今年度のオンライン需要もふまえ改訂を加え、さらに実践編を充実させた。これらは、文化庁のガイドブックに示された理念に基づくものでもあり、多文化共生の地域作り、子供を含む外国出身者のエンパワーメント、対等の関係つくりといった視点を持ったワーク等を載せている。地域のボランティア教室、学校のクラスで大いに活用していただくことを願って作成したものである。 **4）体制整備に向けた連携** 長年要望してきた日本語教育コーディネーターの設置について、文化庁の委嘱事業で続けてきた日本語教育のノウハウが活かされて望ましい形で実現するよう、さいたま市教育委員会をはじめとする機関と連携していった。
事業の実施期間	令和　2年　5月～令和　3年　3月　（　11　か月間）

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	紺頼　麻子	さいたま市教育委員会学校教育部 指導一課・指導主事
2	石川　信雄	さいたま観光国際協会　国際交流センター・センター長
3	桑原　武蔵	埼玉県 県民生活部 国際課・主幹
4	木村 敏隆	公益財団法人 埼玉県国際交流協会・事業戦略担当
5	阿左見 直昭	埼玉県教育局　市町村支援部 生涯学習推進課・指導主事
6	若林 美枝	さいたま市経済局商工観光部 観光国際課　国際化推進係・係長
7	吉原　誠士	さいたま市立 与野南中学校・校長
8	髙柳　なな枝	地球っ子クラブ2000・代表
9	井上　くみ子	多文化子育ての会Coconico・代表
10	芳賀　洋子	あそび舎てんきりん・代表

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年6月10日（水）15:00～17:00	2時間	オンライン	石川、桑原、木村 髙柳、井上、芳賀	1.今年度事業の取組概要の検討 2.さいたま市・埼玉県の日本語教育
2	令和2年10月20日（火）15:00～17:00	2時間	市民活動サポートセンター ミーティングスペース	紺頼、石川、桑原、木村、阿左見、若林（原口）、吉原、髙柳、井上、芳賀	1.今年度事業の取組経過報告 2.さいたま市における多文化親子の現状と課題、今後の体制整備
3	令和3年3月5日(金) 15:00～17:00	2時間	オンライン	紺頼（坪井）、石川、桑原、木村、原口、村田、髙柳、井上、芳賀	1.今年度事業の取組報告 2.質疑応答、意見交換

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	＜運営委員会＞さいたま市の教育委員会、国際交流関係機関。埼玉県の教育局、国際課、国際交流関係機関。現職校長 ＜教室活動＞小学校のスクールソーシャルワーカー、学校地域連携コーディネーター等子どもたちの現場にいる専門職。市内図書館。 ＜人材育成事業＞運営委員会、教育委員会、教育研究所、埼玉県教育局、埼玉県国際課、埼玉県国際交流協会、訪問研修先の学校等 ＜教材作成＞教育委員会、教育研究所 ＜その他・エンパワメント＞市内図書館・公民館等 ＜その他・多文化共生の街作り＞埼玉県社会福祉士会 上記のような連携があってこそ、多言語おはなし会など外国出身者の活躍の場を提供し「発信」の場を設けたり、多文化共生の街作りに貢献したり、子どもたちの教育環境の整備に向け動くことができた。

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	地球っ子グループの3つの団体（地球っ子クラブ2000，多文化子育ての会Coconico，あそび舎てんきりん）とその代表者（中核メンバー）が中心となり、すべての事業に取り組んだ。中核メンバーは、共に活動する会員、参加する外国出身の隣人達がそれぞれが持っている力を十分発揮し、取組がより豊かになるよう協働して実施した。 これまでの文化庁委嘱事業で築き上げてきた他機関との連携を重視し、本事業が円滑に進むよう取組を進めた。運営委員会は、親子の日本語教育の現状と課題を共有し、取組が効果的に進むよう、協力・検証も担った。 ①教室活動を軸に、②人材育成と③教材作成が互いに連動し合って、外国につながる子どもの日本語教育にあたる人材の質の向上、多文化共生の街作りが進むように努めた。その際、教材作成委員会を立ち上げ、教育委員会と協働した。 ②の取組の周知には各運営委員会の機関が協力した。②では、教育委員会との協働により、現場の教員のためのパワーアップ講座や学校等訪問研修を行った。そのほか、やさしい日本語講座の依頼を受けて、多文化共生の街作りにも力を入れた。 さいたま市の多文化の子どもたちに対する日本語教育事業の課題（研修がない、人材に専門性がない、ニーズを把握していない、相談体制がないなど）解決のために、本事業を通し、運営委員会をはじめとする各機関と課題を協働することにより、日本語教育コーディネーターが望ましい形で設置されるよう連携してきた。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施 【活動の名称： 多文化・多様性を活かし双方向の学びあいを作り出す日本語教育の実施 】	
取組の目標	外国出身者が生活者として、生活を豊かにその人らしく生きる力をつける日本語教室活動を目指す。そのために、母語・母文化の尊重、ライフステージにあった内容、地域社会とつながりエンパワメントの機会を作ること、それを支える日本人側の多文化共生の意識を広げることを、教室活動の中に企画・実現する。
内　　容	学習対象者のニーズに応えるため、オンラインを活用し、4つのタイプの教室を運営。 1）活動型親子参加日本語教室（地球っ子クラブ2000担当） 外国につながる親子が日本の教育の中で力が伸ばせるよう、日本語力とグループで活動する力をつける教室。 2）多文化子育て広場（多文化子育ての会Coconico担当） 子育て中の親子がお弁当を持って集まり、子育ての情報交換や相談などを楽しむ居場所・仲間作りをする教室。 3）地域と繋がる学びあいの場（てんきりん担当） 学習者の力を引き出しエンパワメントし.4）に繋げる。 4）活躍・発信（全体）…多言語おはなし会、ワークショップ等の実践 すべての教室活動に共通する要素として、 ●外国出身者と指導者は対等の関係 ●外国出身者の母語・母文化を大切にする ●図書館、チャレンジスクールなどと連携し、外国出身者からの発信の機会を作った。それにより、多文化共生意識の向上、外国出身者（子どもも）が自分のルーツを大切にする気持ちを育まれた。

実施期間	令和　2年　5月11日～令和　3年　3月19日	授業時間・コマ数	1回　2時間　×30回　＝　60時間 1回　3時間　×　2回　＝　6時間
対象者	1）日本語を母語としない親子、外国につながる子どもの教育を支える関係者（保護者を含む） 2）国際結婚、子育て中の外国出身者とその家族 3）外国出身者・地域の日本人 4）多言語母語話者	参加者	総数　110人 （受講者　109人，　指導者・支援者等　13人） ※受講者でもあり、指導者・支援者でもある者が含まれる。
カリキュラム案活用	①カリキュラム案 「Ⅰ健康・安全」「Ⅶ人と関わる」を参考。 福祉関係の教室内容や、多言語おはなし会等、外部と関わるイベントを実施。 ②ガイドブックを活用。理念を踏まえて「ｖ子育て・教育」に関する教室活動を企画、実施。 ⑤を参考に日頃の活動の振り返りに活かした。		
使用した教材・リソース	『みんな地球っ子～話そう！遊ぼう！語り合おう！～親子の日本語活動集』（当団体作成）、 『話題集　多文化ハッピープログラム』（当団体作成）、 生活者としての外国人のためのカリキュラム案		

受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	16	1	0	11	3	0	1	2	6	28
	バングラデシュ（11名）、インド（8名）、香港（3名）、ミャンマー（2名）、台湾（2名）、モンゴル（2名）、トルコ（2名）、アルゼンチン（2名）、ウイグル（2名）、モロッコ（1名）、ロシア（1名）、コロンビア（1名）、カンボジア（1名）、パラグアイ（1名）、不明（2名）									

日本語教育の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年6月13日(土) 10:00～12:00	2	ZOOM	9	私の数字	自分に関わる数字を一日、一年、一生だとどれぐらいになるか計算し、全体でクイズ形式にし、参加者同士互いを知りあう。	髙柳なな枝	ジュラノフちひろ、 赤澤聡子、
2	令和2年6月27日(土) 10:00～12:00	2	ZOOM	10	未来の遠足	各自行きたいところをインターネットで検索し地図や写真を共有しながら、どこに行きたいか、なぜ行きたいかを話し合う。	髙柳なな枝	赤澤聡子、 芳賀洋子
3	令和2年7月25日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	10	クイズ大会 クロスワードパズル	クロスワードを全員で協力しながら解く。その後、自分たちでも問題を作り、互いに問題を出し合う。	髙柳なな枝	ジュラノフちひろ、 赤澤聡子
4	令和2年8月1日(土) 10:00～12:00	2	ZOOM	12	夏休みの宿題とおやつパーテー	夏休みの宿題を保護者も子どもも把握し、一緒にできるものは取り掛かる。	髙柳なな枝	ジュラノフちひろ、 赤澤聡子、 五十洲恵
5	令和2年8月1日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	12	夏休みの宿題とおやつパーティー	夏休みの宿題を保護者も子どもも把握し、一緒にできるものは取り掛かる。	髙柳なな枝	須藤みづほ、 ジュラノフちひろ、 五十洲恵
6	令和2年8月22日(土) 10:00～12:00	2	ZOOM	15	みんなとつながるゲーム	いつ、どこで、誰が、誰と、何をしたか 夏休みの思い出を話す。いつどこで誰が誰と何をしたか、それぞれが出し合った言葉で文作りをする。	髙柳なな枝	ジュラノフちひろ、 赤澤聡子、 五十洲恵
7	令和2年8月22日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	17	自己紹介 互いに知り合おう	初めて参加する人も多かったので、「〇〇は好きですか？」と質問し合いながら、互いに知り合う。	髙柳なな枝	須藤みづほ、 ジュラノフちひろ、 五十洲恵
8	令和2年9月12日(土) 10:00～12:00	2	ZOOM	10	ジャグリング教室	楽しく体を動かしながら、方向に関する言葉、回数などの表現を学ぶ。	髙柳なな枝	ジュラノフちひろ、 井上くみ子
9	令和2年9月26日(土) 10:00～12:00	2	ZOOM	11	十五夜の前に	お月見を前に、月の満ち欠けについて興味をもつことにつなげる。各自が家の中ら探してきた「まぁるいもの」について文章で質問して、みんなで正解に近づける。	髙柳なな枝	赤澤聡子、 五十洲恵
10	令和2年10月10日 (土) 10:00～12:00	2	ZOOM	18	いろいろな「いろ」	色の言い方を確認し、赤青黄色の言い方が理解できる。 家の中のそれらの家のものを持ち寄り、何を持ってきたかやり取りできる。	髙柳なな枝	ジュラノフちひろ、 赤澤聡子、 五十洲恵
11	令和2年10月10日 (土) 14:00～16:00	2	ZOOM	14	いろいろな「いろ」	色の言い方を確認し、赤青黄色の言い方が理解できる。 家の中のそれらの家のものを持ち寄り、何を持ってきたかやり取りできる。	髙柳なな枝	須藤みづほ、 ジュラノフちひろ、 五十洲恵
12	令和2年10月24日 (土) 10:00～12:00	2	ZOOM	13	けん玉を作ってみよう！	作り方の説明を聞き、ひらめきや創意工夫をし、自分のけん玉を作る。さらにどうしたらうまく玉が入るか考えることを促す。	髙柳なな枝	ジュラノフちひろ、 五十洲恵

13	令和2年10月25日 （日） 13:30～15:30	2	ZOOM	9	大宮図書館 多言語おはなし会	インドネシア語と手話による お話やワークショップ	髙柳なな枝	山田フォニー、植草祐美
14	令和2年11月14日 （土） 14:00～16:00	2	ZOOM	13	数字で遊ぼう！	活動を通じ、数字が理解できる。数字を使った表現、年齢や誕生日などが言える。	髙柳なな枝	須藤みづほ、 ジュラノフちひろ、
15	令和2年11月28日 （土） 14:00～16:00	2	ZOOM	14	上・下・右・左	活動を通じ、左右上下が理解できる。 工作で試行錯誤しながら工夫をこらし、自分の作ったお話を発表する。	髙柳なな枝	須藤みづほ、 ジュラノフちひろ、 五十洲恵
16	令和3年2月13日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	12	好き？嫌い？ どっちが好き？	会話の中で「好き・嫌い」「どっちが好き？」など日本語だけを使いながらやり取りができるようにする。	髙柳なな枝	芳賀洋子、 ジュラノフちひろ、 五十洲恵
17	令和2年5月18日(月) 10:00～12:00	2	ZOOM	7	ZOOMの 使い方講座	母語を教える活動を、ZOOMを使って続けたいという声があり、方法をおしえあった。	井上くみ子	芳賀洋子
18	令和2年6月8日(月) 13:30～16:30	3	南浦和図書館	10	武蔵浦和図書館 おはなし会撮影	コロナ禍でおはなし会ができず、YouTube配信の形に変え、自国の手遊びや文字などを配信した。	井上くみ子	小野寺美樹、芳賀洋子
19	令和2年6月15日(月) 11:00～13:00	2	ZOOM	7	おしゃべり ランチ会	なかなか外出できない状況で、いつものようにおしゃべりができる仲間とそれぞれがお昼を準備し集まった。	井上くみ子	
20	令和2年7月6日(月) 10:00～12:00	2	ZOOM	5	日本の介護・医療	医療機関、介護施設で働く参加者がいたので、現場でとまどう言葉や経験を勉強した。	井上くみ子	鈴木　紗弥香(賀瑩)
21	令和2年9月7日(月) 10:00～12:00	2	ZOOM	5	手話で覚える 日本の名前漢字	漢字が苦手で名前が覚えられないとのことで、手話で手を動かしながら感じの形と意味を勉強した。	井上くみ子	五十洲恵
22	令和2年9月21日(月) 10:00～12:00	2	ZOOM	9	タオル・ハンカチ工作	親子で、タオルやハンカチを使って、ぬいぐるみや、マスクなどを作った。	井上くみ子	赤澤聡子
23	令和2年11月16日 （月） 10:00～12:00	2	ZOOM	5	絵本の翻訳	日本の絵本を自国で紹介したい、また自国の絵本を日本語でみんなに紹介したいという意見から、翻訳に挑戦した。	井上くみ子	芳賀洋子
24	令和3年1月4日(月) 10:00～12:00	2	ZOOM	12	おしゃべり 新年会	今年の目標、計画、やりたいこと、欲しいもの等々、年の初めに1年のことを話し合った。	井上くみ子	
25	令和2年5月21日(木) 15:00～17:00	2	ZOOM	10	子育て・教育	コロナで一斉休校の中、親子の時間を楽しく過ごすじゃんけんゲーム体験と家庭学習の相談	芳賀洋子	井上くみ子
26	令和2年6月25日(木) 15:00～17:00	2	ZOOM	12	子育て・教育	zoomで親子で工作と 学校再開に伴う相談	芳賀洋子	井上くみ子
27	令和2年9月3日(木) 10:00～12:00	2	ZOOM	8	活躍・発信・エンパワーメント	「わたしの好きなこと、私にできること」絵本の楽しさと発信に向けた話し合い	芳賀洋子	五十洲恵、
28	令和2年9月12日(土) 10:00～12:00	2	さいたま市 針ヶ谷小学校	19	活躍・発信・エンパワーメント	さいたま市針ヶ谷小学校チャレンジスクールで、国の紹介と交流	芳賀洋子	ウエイゼンピョー
29	令和2年10月1日(木) 10:00～12:00	2	ZOOM	7	子育て・教育	子どもの教室の保護者会。子どもの成長にとって必要なこと。日本での子育てで気がかりなことなど。	芳賀洋子	
30	令和2年10月13日 （金） 10:00～12:00	2	てんきりん	11	活躍・発信・エンパワーメント	多言語で絵本・地域の日本人と一緒に、持ち寄った絵本を紹介しあった。多言語おはなし会に向けて、力をつける	芳賀洋子	
31	令和2年11月5日(木) 10:00～12:00	2	ZOOM	10	地域へ発信・交流	さいたま市東大久保公民館に新規教室のスタッフの訪問を受け、外国出身者の経験を中心に話し合い。	芳賀洋子	井上くみ子
32	令和2年12月2日(水) 10:00～12:00	2	ZOOM	7	活躍・発信・エンパワーメント	自分の国の紹介を頼まれた時のテーマと紹介の仕方。特に自分の経験を話す大切さについて。	芳賀洋子	井上くみ子
33	令和2年12月5日(土) 9:00～12:00	3	てんきりん	10	活躍・発信・エンパワーメント	キムチ作り。地域の人も参加して、ウンミさんの家庭のキムチを作った。コロナ禍で参加者を分散して行った。	芳賀洋子	李銀美

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【第11回　令和2年10月10日】 いろいろな「いろ」

1. 赤・青・黄色の言い方を確認
2. 家にある「赤いもの、もってこよう！何？」「青いもの、もってこよう！何？」「黄色いものは何？」
3. 言われた色を見せる：日本語、中国語、タミル語、カンナダ語、テレグ語、ミャンマー語、タガログ語
   お母さんに母語での色の表現を紹介してもらいながら、自分や友達のことばでも色の言い方のゲーム
4. グループに分かれ、各自勉強の時間
5. 全体発表

〇取組事例②

【第18回　令和2年6月8日】

毎年、南浦和図書館と武蔵浦和図書館で行っている『Coconico多言語おはなし会』が、コロナの影響で中止となった。図書館の方と相談を重ね、YouTubeでの配信ができないかと検討し、感染対策を万全にして撮影を行った。著作権等の関係で、できることがかぎられたが、「世界の国のあいさつ」「クメール語で名前を書いてみよう」など、手遊びや言葉遊び、太極拳や物語など、合計8本の動画を撮影した。慣れない撮影で、緊張している様子であったが、自分の国や言葉を広く配信することができ、満足な様子だった。8本の動画は、7月と8月に2回に分けて、さいたま市の「としょ丸ちゃんねる」で配信された。（https://www.youtube.com/user/saitamacitypr/videos）

〇取組事例③

【第33回　令和2年12月5日】韓国李さんの家のキムチ作り

毎年恒例になって、地域の人に期待されるイベントになったキムチ作り。今年度はコロナ感染が広がる中、開催自体が難しい局面があったが、大幅に参加者を制限し、時間も分散して実施した。例年だと、地域の日本人が大勢参加して、キムチを作りを通して、お互いの交流を図るのだが、今年度は、外国出身者中心に限定し、地域の人には、出来上がったキムチを取りに来てもらうことにした。十分な取り組みはできなかったが、逆に、地域の人から楽しみにしてもらえる関係になっていることが明確になった。この教室活動の大きな目標である、外国出身者の活躍と、多文化共生の街つくりの成果である。
李さんは、来日当初から親子で地球っ子クラブやてんきりんに参加し、地域の日本人と交流する中でキムチ作りを初め、自分でチング（ともだち）というサークルを立ち上げるなど活躍をし、日本に来なかったらもっと普通の主婦でいたと思うと語っている。李さんはこの日も朝早くから奮闘し、私たちは、教えてもらいながら協働して例年通りのおいしいキムチを作り、みんなに届けることができた。「コロナ禍でもみんながキムチでつながった」活動になった。

（2） 目標の達成状況・成果

コロナの影響で対面での教室活動ができなくなったが、すぐにZOOMに切り替えたことにより、教室を休むことなく活動を続けることができた。対面とは違い、今まで積極的に取り入れてきた実験や料理など、オンラインではできないことも多く、慣れるまでには少し時間がかかったが、まずやってみたことは外国出身親子の学びを止めないことにもつながり良かった。一方で、インターネット環境は整っているが、オンラインでの教室活動には参加しない親子もいたので、教室活動の連絡とは別に定期的に連絡をとり、つながりを保つことができた。
参与観察や参加者の発言から、オンラインでのつながりがあったおかげで、学校からの連絡確認などもでき、勉強や家庭での様子も見ることができた。また、ZOOMの使い方を覚えたことで、自分でも何かやってみようという意欲に変わった人もいた。遠くの人ともつながることができ、オンラインでつながることの良い面も知る機会にもなった。学校での心配事や生活の不安の解消、人とのつながり等、今までとは違う方式ではあったが、できる範囲ではおおむね達成できたのではないかと思う。

（3） 今後の改善点について

●オンラインの導入により、教室からは遠く離れた人の参加もあったので、今後、対面での教室活動に戻す場合は、教室活動に合わせてオンライン教室の継続も考える必要がある。
●人が集まることが難しく、例年に比べ活躍の場を作ることが難しかったので、今後はまた外国出身親子がたくさんの人の前で活躍できるような場を多く提供したい。
●コロナ渦により、学校関係の情報や給付金など行政からの情報が行き届いていないことも明確になった。必要な情報が届くような支援は今後も続けていきたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
【活動の名称：外国ルーツの子どもに寄り添う支援のあり方～多文化共生、多様性豊かな教育環境つくりと日本語教育】

取組の目標	将来の日本を支える人材である外国に繋がる子どもたちが、その多様性を活かしてそれぞれにあった教育が受けられるようになるためには、支援の体制整備、特にその教育に関わる人材育成は必須である。しかし、日本語加配教員やさいたま市日本語指導員、日本語ボランティア、子どもたちや保護者に関わる教職員に対する十分な研修はない。そこで、2019年度に作成した教材を活用し、母語や母文化、教育的配慮や保護者との関わり、学級経営などについて、人材育成講座を開催する。
内　　容	将来の日本を支える人材である外国に繋がる子どもたちが、その多様性を活かしてそれぞれにあった教育が受けられるようになるためには、支援の体制整備、特にその教育に関わる人材育成は必須である。しかし、日本語加配教員やさいたま市日本語指導員、日本語ボランティア、子どもたちや保護者に関わる教職員に対する十分な研修はない。そこで、2019年度に作成した教材を活用し、母語や母文化、教育的配慮や保護者との関わり、学級経営などについて、人材育成講座を開催した。今年度は、コロナの感染拡大で3月1日から全国一斉休校になり、公共施設も閉鎖になったことから、計画した講座をzoomに切り替え実施した。zoomであっても、参加者と顔の見える双方向の講座を開きたいと考えたため、1回の人数と時間を限定し、その代わり複数回開く形で対面に勝るとも劣らない活発な講座が開けたと思う。全国から参加者があり、大変いい刺激になった。これはzoomならではの利点であった。今後もこのつながりを大切にしていきたいと考えている。

実施期間	令和　2年　5月11日～令和　3年　3月19日	授業時間・コマ数	1回1.5時間×5回　＝7.5時間 1回2時間×7回＝14時間 1回3時間×3回＝9時間 1回4時間×2回＝8時間　　合計38.5時間
対象者	(1)日本語指導員、日本語ボランティア (2)さいたま市教職員 (3)保育園、学校の職員 (4)多文化の子どもの教育に関わる全ての人	参加者	総数　167人（受講者163人，指導者・支援者等15人） ※1人の人物が、ある時は受講者、活動によっては支援者になることもあったので、総数が少なくなっている。
カリキュラム案活用	①カリキュラム案にある構成を理解して、日頃の活動の中で、学習者のニーズにあった組み立てができるようになることの重要性を学んだ。 ②ガイドブックを活用。理念を十分に理解することが、日本語教育の基本にあることを学びあった。 ⑤指導力評価項目を活用して、その基準を確認し、日頃の振り返りに活かす必要性を確認した。		
使用した教材・リソース	・文科省『外国人児童生徒受入れの手引き』 ・各種絵本　・『みんな地球っ子～話そう！遊ぼう！語り合おう！～親子の日本語活動集』 当団体作成 ・『話題集　多文化ハッピープログラム』 当団体作成 ・『多文化の子どもたちに関わる人のためのアイデア集「今日からいっしょに」 』当団体2019年作成		

受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	5	3	1	1	0	0	0	0	0	149
	ミャンマー　2人、アルゼンチン1人、パラグァイ1人									

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和2年5月27日(水) 10:00～11:30	1.5	ZOOM	28	緊急事態！Zoom初心者講座	勉強会1：zoomを活用にしり込みしている人や他団体がzoomで教室開催することにつなげた。	井上くみ子	補助者　髙柳なな枝
2	令和2年5月28日(木) 19:00～20:30	1.5	ZOOM	26	緊急事態！Zoom初心者講座	勉強会1：zoomを活用にしり込みしている人や他団体がzoomで教室開催することにつなげた。	井上くみ子	（コーディネート　髙柳なな枝）
3	令和2年6月20日(土) 10:00～11:30 14:00～15:30	3	ZOOM	52	子どもの力を伸ばす方法を考える　～多様性を生かした学びの形～	勉強会2：活動の実践例を紹介しながら活動のよさ、そして多様性をいかした学びとして何ができるか考えた。	髙柳なな枝	補助者　井上くみ子
4	令和2年7月10日(金) 20:00～21:30	1.5	ZOOM	18	子どもの力を伸ばす方法を考える　～多様性を生かした学びの形～	勉強会1，2の参加者の要望に応えるため、振り返りと意見交換をした。	芳賀洋子	補助者　井上くみ子
5	令和2年7月18日(土) 10:00～11:30 14：00～15：30	3	ZOOM	54	伝える！伝わる！やさしい日本語～外国ルーツの親子とのコミュニケーション～	研修会：わからない体験などのワークを通して、やさしい日本語を学んだ。	井上くみ子	（コーディネート　髙柳なな枝）
6	令和2年8月5日(水) 19：30：～21：30	2	ZOOM	15	伝える！伝わる！やさしい日本語～外国ルーツの親子とのコミュニケーション～	研修会：わからない体験などのワークを通して、やさしい日本語を学んだ。	井上くみ子	（コーディネート　髙柳なな枝）
7	令和2年8月29日(土) 10：00：～12：00 14：00～16：00	4	ZOOM	50	外国ルーツの子どもに寄り添う支援のあり方～関わるときに大切にしたいこと～	勉強会3：音読、文字指導などの初期指導の大切さと関わる人たちの責任を考えた。	芳賀洋子	（コーディネート　井上くみ子）
8	令和2年9月2日(水) 19：30～21：30	2	ZOOM	24	外国ルーツの子どもに寄り添う支援のあり方～関わるときに大切にしたいこと～	勉強会3：音読、文字指導などの初期指導の大切さと関わる人たちの責任を考えた。	芳賀洋子	（コーディネート　髙柳なな枝）

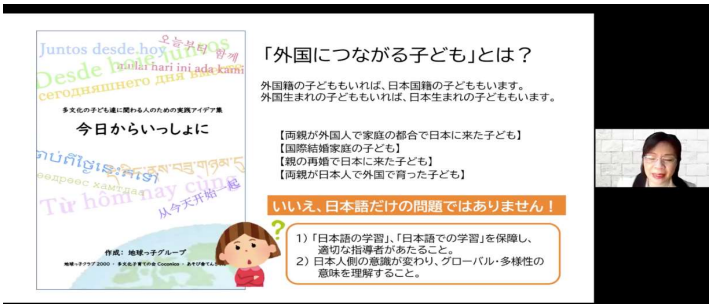
9	令和2年9月19日(水) 10:00～12:00 14:00～16:00	4	ZOOM	40	振り返りと意見交換。外国出身者の声を聴く。	勉強会4：今までの振り返りと今後のつながりについて。また目の前の子どもや保護者を見るときの視点について考えた。	髙柳なな枝	賀瑩、西川ナンシ、卓天成、スラインニン、ウエイゼンピョー、ブ ティ タン タオ （コーディネート 井上くみ子）
10	令和2年10月29日 （木） 19:00～21:00	2	ZOOM	55	外国につながる子どもだからこそ、外国につながる子どもがいるからこそ！	講演会1：外国につながる子どもたちの豊かな多様性を活かす「多文化共生教育」について、ZOOMによる講座。地球っ子グループが作成した教材にも触れてくださいました。	結城恵	（コーディネート芳賀洋子）
11	令和2年10月30日 （金） 19:00～21:00	2	ZOOM	26	外国につながる子どもだからこそ、外国につながる子どもがいるからこそ！	勉強会5：講演会の内容をどう実践していくか、昨年度作成の教材を活用しながら話し合った。	芳賀洋子	（コーディネート 髙柳なな枝）
12	令和2年10月31日 （土） 10:00～12:00	2	ZOOM	22	外国につながる子どもだからこそ、外国につながる子どもがいるからこそ！	勉強会5：講演会の内容をどう実践していくかを考えあった。	芳賀洋子	（コーディネート 髙柳なな枝）
13	令和2年12月19日(土) 9:00～12:00	3	さいたま市南浦和文化センター	28	ろう教育から日本語教育を考える 聾学校での教育実践から	講演会2：一見別の分野でありそうなろう教育の視点から、日本語教育を見ることができた。	戸田康之	手話通訳者 2名 （コーディネート芳賀洋子）
14	令和3年2月10日(水) 19:00～21:00	2	ZOOM	29	～多文化共生、多様性豊かな教育環境づくりと日本語教育～	勉強会6：外国出身者の声にスポットを当て、彼らの体験や、外国ルーツの人に関わる人たちへのメッセージを聞き、「ひとり一人が持つ多様性」を活かした学びのあり方を考えた。	井上くみ子	西川ナンシ、鈴木紗弥香(賀瑩) （コーディネート 髙柳なな枝）
15	令和3年2月20日(土) 10:00～12:00	2	ZOOM	32	～多文化共生、多様性豊かな教育環境づくりと日本語教育～	勉強会6：外国出身者の声にスポットを当て、彼らの体験や、外国ルーツの人に関わる人たちへのメッセージを聞き、「ひとり一人が持つ多様性」を活かした学びのあり方を考えた。	髙柳なな枝	洪彰賢、李銀美 （コーディネート 井上くみ子）
16	令和2年8月28日(金) 18:45～20:30	1.5	さいたま市教育研究所	8	教師力パワーアップ講座	各自現場の現状や課題など意見交換。 初期指導、学校との連携、研修の必要性について検討。	髙柳なな枝	芳賀洋子
17	令和2年11月13日 （金） 18:45～20:30	1.5	さいたま市教育研究所	31	教師力パワーアップ講座	グループに分かれ、外国ルーツの子どもについて現状や課題について話し合う。日本語指導、初回に何をするか意見交換。	髙柳なな枝	芳賀洋子、井上くみ子

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第10回　令和2年10月29日】講演会1と勉強会5「外国につながる子どもだからこそ、外国につながる子どもがいるからこそ！」

群馬大学の結城先生を迎え、上記タイトルで、外国につながる子どもたちの豊かな多様性を活かす「多文化共生教育」について、ZOOMでの講演会を実施した。結城先生がどのように多文化共生教育に取り組んでいるのかを伺い、さまざまなヒントや気づきを得ることができた。また、地球っ子グループが作成したオリジナル教材の内容にも触れつつ、子どもの気持ちや頭の中を考えてみる事の大切さを、先生の体験や実践も交えて、お話しくださった。後半、先生が学生と挑戦した動画制作プロジェクト(その後、その動画は最優秀書を獲得した)のことを熱く語られ、外国の人の発想と多様性が大きな力になることが実感できた。外国の人の力を引き出すことやエンパワーメントが日本語教育の大きな目的であることも確認できた。
さらに講演会の内容をどう実践していくかを考える勉強会を、10月30日と31日に行った。講演会と実践勉強会、二つを通して受講者の皆さんと、活発な意見交換ができ、より深く考えることができた。



○取組事例②

【第13回　令和2年12月19日】講演会2「ろう教育から日本語教育を考える～ろう学校での教育実践から～」

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園の戸田康之氏を迎え、久しぶりにオンラインではなく対面で、上記テーマの講演会を実施した。戸田先生ご自身がろう者であり、ろう学校の教員でもある立場から、体験や実践をお話しくださった。私たちは、日ごろ日本語教育分野で活動しているが、一見別の分野でありそうなろう教育の視点から、日本語教育を見ることができ、人にとって言葉とは何か？という原点に立ち返って、考えることができる講座だった。
母語や親子間のコミュニケーションの問題、「私は私」と自分を認めることの大切さ。こういった、誰にとっても大切な基本が守られること、私たちの活動の基本もここにあることを改めて意識していきたいと思った。日本語教育に携わる者は、日本語だけを考えるのではなく、広い視野に立って、多文化共生や、多様性について考えられる人材になることが求められると感じた。戸田先生の情熱やお人柄も感じることができ、みなさんといろいろと意見交換することもできて、とてもよい機会となった。

(2)　目標の達成状況・成果

「多文化の子どもたちはみんな、これからの社会を共に生きる子どもたち」であり、その子どもたちが、それぞれの多様性にあった教育が受けられるようになることを願って、2019年度に作成した教材を活用し、母語や母文化、教育的配慮や保護者との関わり、学級経営などについて、人材育成講座を開催した。コロナ禍でオンラインによる講座だったため、遠方の参加者も含め多くの参加者があり、ブレークアウトルームの活用などで活発な意見交換もでき、目標の達成に役立った。活動を切れ目なくオンラインに切り替えたが、当初は、参加希望者も戸惑いが多かった中で、多くの地域の参加希望者をオンラインが使えるように引っ張ったほか、地域の日本語教室の再開につながったケースもある。さらに、オンラインの講座に伴う事前事後のメールでのやり取りも活発になり、多くの日本語教育関係者が、つながりと学びの場を求めていることがわかったことは成果の一つである。

以下、寄せられた感想の一部である。
・全国各地の方々と繋がりをもつことができ、様々な意見を伺うことができ大変有意義なZoom講習会でした。
・とても楽しかったです。理念を大切にしつつ、それを実践へとつなげていく。でも創り出すのは「みんなで」。
　勉強会そのものもそうした考え方が大切にされていてとても素敵でした！
・多様性の尊重という同じ目的を持って、様々な活動をされている多彩な方々のお話を伺うことができ、多くを学ぶことができました。
・「みんなで話し合って、協力しないと達成できない」活動を考える、という点が心に残りました。教えられるのでなく、主体的に活動する中で
　いろいろなことに気づいていくのが大切なのですね。
・皆さんの体験談や工夫を伺い、とても励みになりました。今後の活動に、早速明日の小学校から頑張りたいです。
・子どもの時に来日したNさんの話は感動しました。子どもの話をもっとよく聞こうと思いました。
・CH君の体験談と今は活躍している姿を見て、自分の担当している子どものことを思い、泣いてしまいました。

(3)　今後の改善点について

パワーアップ講座に日本語指導員を中心に多くの参加者があり、大変熱い意見交換ができた。さいたま市教育委員会の担当者も参加していて、こうした講座の必要性を実感してもらえたと思う。外国ルーツの子どもの日本語指導の専門性については、行政そのものの理解が乏しく、大きな問題である。行政関係は、2年か3年で配属が変わり、日本語教育関係も担当者が変わる。少しずつの変化はあるものの、毎回、振り出しに戻った感は否めない。そんな中で、子どもたちの教育は待ったなしである。本来であれば教育委員会が開くべき講座を文化庁の事業として実施してきた結果、参加者とは、理念の共有や連携は大いに高まったと思う。この成果を、さいたま市や埼玉県全体の日本語教育についての理解、ひいては体制整備に結び付けていかなければならない。今後、実際に日本語教育に関わっている人たちとの学びを実効あるものにする(グループ化することを考えている)とともに、国のレベルでも、日本語教育についての環境が進んできているので、引き続き、教育委員会やその他の機関に働きかけていきたい。

日本語教育のための学習教材の作成 【 教材の名称: 多文化の子どもたちに関わる人のためのアイデア集「今日からいっしょに」 改訂版 】	
取組の目標	2019年度の教材作成を研修会等で実際に使用しながら改訂を加え、実際に教室その他で実践できるアイデア部分をさらに充実させる。
内　　容	外国につながる子どもが増える中で、「外国人児童生徒受入れの手引き」が教育委員会や現場の教員に周知されていないために、現場の教員の困り感は大きく、子どもたちや保護者に対する適切な配慮がなされないまま放置されることもある。文化庁人材育成講座の中で出てきた、「外国につながる子どもが来た時、地域の人や担任をはじめとする、子供たちの周りにいる人々がすべきことについて具体的に参考になるガイドブックがほしい」という声に基づき、2019年度に教材を作成した。今年度は、それを研修会等で実際に活用しつつ、また今年度のオンライン需要もふまえ改訂を加え、さらに実践編を充実させた。 ＜教材活用＞ プログラムAの人材育成事業の勉強会で、2019年度作成の教材の内容を活用した。また、教育委員会と連携して、さいたま市の日本語指導員向けに現在使われている教材に加えて、使用を広めていけるよう相談している。 ＜教材の改訂＞ 今年度の文化庁事業の勉強会で使用した結果を反映したり、勉強会で話題になった項目を加筆したり、教育委員会の意見を参考に使いやすさを目指した「リーフレット」を追加したりした。また、昨年度の教材に載せきれなかった日本語指導アイデアを加え実践部分をより充実させた。それにより、勉強会等での活用だけでなく、教員や個人が、読んだだけでアイデアを実践できるように目指した。改訂により目指す総時間数は60時間とし、実践部分が増える分、その他の部分はできるだけシンプルになるよう心がけた。 ＜2020年度教材の内容＞ はじめに 第1章　子どもたちがいきいきと成長できる学校・地域を作るために　関わるすべての人が共有すべき知識・態度 第2章　同じって嬉しい！　違うってたのしい！ 第3章　今日からいっしょに！ 第4章　オンラインでの学習支援 第5章　多言語おはなし会の紹介 第6章　やさしい日本語・やさしい学校 第7章　指さし会話帳～学校版～ あとがき 別紙「リーフレット」 ＜教材作成検討委員会の設置＞ 教材作成委員会は回数をあまり多く設定できないため、石井恵理子氏および教育委員会（日本語指導員の派遣担当）には、丁寧に報告し、意見・アドバイスをもらった。実際の作成業務は、日本語教育の現場の委員が行った。

実施期間	令和2年5月１１日～令和3年3月19日	作成教材の想定授業時間	1回　3時間　×　20回　＝　60時間
対象者	地域の支援者、教職員（担任、管理職、他）、日本語指導員等、外国につながる児童生徒に関わる全ての人	教材の頁数	85ページ （改訂・加筆36ページ）
カリキュラム案活用	①②多文化の子どものライフコースに配慮した教員、支援者向けの教材はないため、カリキュラム案、ガイドブックの内容をふまえて2019年度に作成した教材に改訂を加え、実践部分を充実させた。 ②ガイドブックを活用し、基本姿勢を理解した。 ③カリキュラム案・教材例集を活用し、研修会での児童生徒の学習内容作成の演習にあたり、授業の流れを理解した。		
事業終了後の教材活用	実践部分をより多くした改訂版を作り、講演会・勉強会等での活用に加え、個人的にも活用できるようにした。教育委員会との協働により、使用を広め、日本語教育に携わる人のスキルアップにつなげられるよう相談を進めている。		
成果物のリンク先	地球っ子グループ HP　https://chikyukko.github.io/ 地球っ子クラブ2000 HP https://chikyukkoclub2000.blogspot.com/		

4. 事業に対する評価について

（1） 事業の目的・目標

「日本で育つ外国ルーツの子どもたちは、これからの社会を支える子どもたち」という認識を子どもたちを取り巻くすべての人が共有する必要がある。当団体（地球っ子クラブ2000および、多文化子育ての会Coconico，あそび舎てんきりん）が文化庁委嘱事業の中で気づき、積み重ねて、さらに教材化したノウハウをもとに、子どもたちやその保護者を取り巻くすべての人と学び合い、彼らが自分の持つ多様性と能力を活かし日本社会を構成する一員として活躍できるように、よりよい教育環境を作っていくことを目的とする。

そのための具体的な活動として、1）教室活動2）人材育成事業3）教材作成に取り組むが、生活者としての外国人のための日本語教育の理念を活動に活かし、さらには教育現場、地域社会に向けて、当事者である外国出身者と共に発信していく。
昨今、外国人材に期待する日本社会の流れの中で、生活者としての外国人の子育てや教育支援について、やっと関心が向くようになってきた。さいたま市でも、当団体が、文化庁委嘱事業の取組として訴えてきた日本語教育コーディネーターの件や生活者としての外国人に対する日本語教育の理念について、変化が感じられるようになってきている。その変化が、外国につながる子どもやその保護者にとって本当に意味のある体制に結びつくためには、教育をはじめとする地域社会全体が多文化共生の街へと成熟することが必要である。引き続き、「おんなじってうれしい！ちがうって楽しい！」を合い言葉に、多文化共生の街作り、多様性のある豊かな街作りの視点から、双方向の日本語教育を進めていきたい。

（2） 目的・目標の達成状況・事業の成果

●取組1の教室活動について、参与観察や参加者の発言から、まずコロナ禍においても学びを止めなかったことが一つの成果だと言える。緊急事態宣言後、活動場所としている公民館などの活動場所が使用禁止になったり、人数制限がもうけられたりしたが、すぐにオンラインに切り替えたことで、一度も休まず活動を継続できた。この緊急事態宣言下こそ、外国出身の保護者は行政や学校からの通知が理解できなかったり、子どもの学習のサポートをどうすればいいかわからなかったりしたので、教室を開催することで、その場に応じた日本語や学習内容について学んだり、サポートすることができた。またその学びで得た日本語を使い、図書館の多言語おはなし会での発信事業でも、その人が持っている能力を日本人住民にも知らせることができた。オンラインでのおはなし会や動画撮影などは初めての試みだったが、図書館のおはなし会の参加者からの発言から、楽しい内容で家にいながらも多文化に触れられるいい機会となったようである。
●取組2の人材育成では、こちらもほぼオンラインでの開催であったが、勉強会後のメールや連絡から、多文化の子どもに関わる際の配慮や知識・技能・態度が学べたようだ。オンラインで開催できたことで、さいたま市やその近郊の人だけではなく、国内の様々な地域や国外からの参加もあり、例年より広い輪の繋がりを持つことができた。他地域であっても、この研修会で知り合ったもの同士の意見交換や情報共有が進み、今後、各地域でもこのような勉強会を開催したいという声があがっている。さいたま市教育研究所のパワーアップ講座では、教育委員会から広くその研修についての広報があったため、今までにないほどの参加人数があった。今後の開催形式は検討が必要だが、多文化の子どもに関わる人の勉強会を欲している人が多いことはわかったので、今後もこのような学びの場は継続していきたい。
●取組3の教材作成では、成果物として「多文化の子どもたちに関わる人のための実践アイデア集『今日からいっしょに』改訂版」を完成させることができた。昨年度作成した教材に、実践の具体例やオンラインでの学習についての項目を加えた。また、いろいろな立場の人がすべて、多文化の子どもたちに関わる一人なのだという意識を持ってもらい、すぐに参考にしてもらうページを紹介できるようにリーフレットを追加した。今後はこの教材をもとに各現場で多文化の子どもたちのために効果的に活用され、より使いやすく、具体的なものにするために改善を施していきたい。

（3） 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

昨年同様、「カリキュラム案について」多文化の子どもや保護者のライフコースに配慮した教員・支援者向けの教材はないため、カリキュラム案の内容を参考に教材を作成することができた。
「ガイドブック」を活用することで、基本姿勢を理解することができたし、また「教材例集」カリキュラム案・教材例集を活用することで、研修会での児童生徒の学習内容作成の演習にあたり、授業の流れを理解することができた。

今年度までの事業、さらには今回の緊急事態宣言下ではなおさら、カリキュラム案に「子育て・教育」の項目が加えることが必要不可欠であることが明確となった。その際、普段からのつながりが必要であるということを重視してほしい。
カリキュラム案では生活者のエンパワーメントが狙いとなっているが、その内容は日本人の視点から必要であろうということを扱っている。外国出身者の本来の力を引き出すためには、カリキュラム通りではなく、目の前にいる外国出身親子のことを日本語教育に関わる人が知り、配慮や工夫が必要である。

（4） 地域の関係者との連携による効果，成果 等

●運営委員をはじめとした連携機関の担当者と密に連携をとり、事業を行っていくことができた。
教育委員会には教材作成委員にもなってもらい、今後どうしたら広くこの教材を活用できるかなど検討することができた（現在も検討中）。
また人材育成のパワーアップ講座の周知活動に協力してもらえた。また研修会では、埼玉県教育局に後援してもらい、その告知には、
県国際課のメール配信や埼玉県国際交流協会のメールマガジンなどを活用させてもらい、周知につながった。
●図書館やチャレンジスクール（小学校）との連携による事業は日本人住民との交流の場でもあり、日本人・外国人にとっていい学びとなった。
コロナの影響でオンラインでおはなし会を開催したが、絵本の著作権について、図書館が出版社とやり取りを進めてくれた。
●プログラムBを行っている時から関係がある七里地区の協議会メンバーである中学校から、日本語がわからない保護者への通訳依頼があった。
教室で学んでいた保護者にお願いをし、学校に行き、子どもの教育や進路のことについて考える機会、教室を紹介する機会が持てた。
●埼玉県社会福祉士会との連携は互いに勉強になり、今後社会で多文化の親子を支えていくためにも重要なつながりとなった。
ソーシャルワーカーなど福祉分野の方との連携により、日本語だけではないサポートが広がっていく可能性がある。
●文化庁事業のつながりから、埼玉県多文化共生推進委員、埼玉県社会教育委員・生涯学習推進委員、埼玉県日本語教育検討会議委員、
「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業推進会議委員など県内のさまざまな会議に参加する機会をいただき、
連絡帳は全部読めるけど意味が解らないとか、みんなに親切にしてもらっているけど本当は自分もみんなの役に立ちたい、または、6年生なのに1年生のドリルを渡されて悲しかったなど、外国出身親子から受け取ったメッセージを代弁できる機会をもらった。

（5） 事業実施に当たっての周知・広報と，事業成果の地域への発信等について

●取組1の教室活動や、取組2人材育成については当グループのHPやfacebookなどのSNSや、口コミを中心に周知・広報に努めた。
また、県メール配信や、国際交流協会のメールマガジンなども活用させてもらった。
教室活動や人材育成ではオンラインで行うことで、参加者が安心して参加でき、対面では広がり得ない範囲で参加があった。
一方、教室活動や発信などでは対面が適していることも多いので、今後はオンライン・対面の強みをいかし、うまく活用していきたい。
●地域への発信である図書館での多言語おはなし会では、図書館側がチラシを作成し、著作権についてのやり取りや広報活動にあたってくれた。

（6） 改善点，今後の課題について

●私たちの教室に参加している人でインターネット環境がない人はいなかったが、今後、このような緊急事態で対面できなくても繋がれるために、
wifi環境などの整備について、自治体に働きかけていきたい。
●例年課題にあがっている点であるが、人材育成に関し、外国につながる子どもに対し、直接かかわる教職員がより多く参加できる研修の機会を
作る必要がある。研修会や訪問研修などの機会を通じ、今年度作成した教材を使用しながら、ポイントとなる点を伝えていけるようにしたい。
●教材作成では、今後、実際使用してみた人の声や反応を反映させ、さらに使いやすい教材にしていきたい。
●外国出身親子の教育環境の改善・充実のためには、適正な人材の育成、体制整備が不可欠である。
特に要である地域日本語教育のコーディネーターの適切な配置と活用が必要である。これらに対し、働きかけていきたい。

（7） その他参考資料

・発信チラシ＿大宮図書館　多言語おはなし会
・人材育成チラシ1＿勉強会1．2
・人材育成チラシ2＿研修会
・人材育成チラシ3＿勉強会3
・人材育成チラシ4＿勉強会4
・人材育成チラシ5＿講演会1・勉強会5
・人材育成チラシ6＿講演会2
・人材育成チラシ7＿勉強会6